

指導方法等の改善計画

広島市立福木中学校

[◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇:全国学力・学習状況調査]

<国語>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

本校	64.1%
県	73.6%

通過率 30%未満
本校 3%
県 1.3%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	70.8%
全国	75.8%
県	76.5%

本校	62.0%
全国	66.8%
県	67.0%

重点課題

◎読むこと、書くことに特に課題が見られる。書く力が問われる設問においても問題文の意図していることが読み取れていないことを原因とする誤答が多くみられた。

◇どの項目においても県平均を少しずつ下回る結果となった。あきらめずに問題に取り組む姿勢は少しずつ見えるようになってきたのでこの姿勢を学力向上へとつなげていきたい。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

◎文章だけでなく、図表やグラフなど様々な資料の中から必要な情報を読み取る力を定着させるための言語活動を単元ごとに設定して総合的な国語力を伸ばさせていきたい。

◇生徒が主体的に学ぶ授業づくりを積極的に行い、学ぶ意欲を高めることで学力の定着を目指したい。小論文や選抜Ⅱの記述問題にも対応できるような総合的な国語力を伸ばさせていきたい。

<数学>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

本校	58.0%
県	70.4%

通過率 30%未満
本校 13%
県 5.5%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	54.9%
全国	64.4%
県	64.6%

本校	33.5%
全国	41.6%
県	42.7%

重点課題

◎文章やグラフから数量関係を読み取る力が低い。また、それらの問題に対面したときにあきらめてしまう傾向があり、そのことは通過率30%未満が13%に表れている。

◇どの項目も全国・県の平均を下回っているため、全体的な底上げが必要である。基本的な計算問題への取り組み状況はよかったため、発展問題へチャレンジする意欲を高めていきたい。

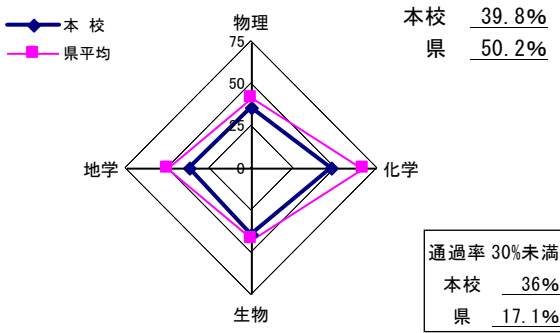
重点課題に対応した改善指導内容及び方法

◎高校入試での基本的な計算問題を全員が解ける（満点を取れる）ことを目標に、日々の授業での小テストを行なう。発展問題に真剣に取り組む生徒も多いので、モチベーションをあげていくような授業展開を、アクティブラーニングなどを活用して行なう。

◇各章での発展問題、文章やグラフから数量関係を読み取る事に重点を置き、同じような問題を繰り返し解くことで「苦手意識」をなくしたい。発展問題に真剣に取り組む生徒も多いので、モチベーションをあげていくような授業展開を、アクティブラーニングなどを活用して行なう。

<理科>

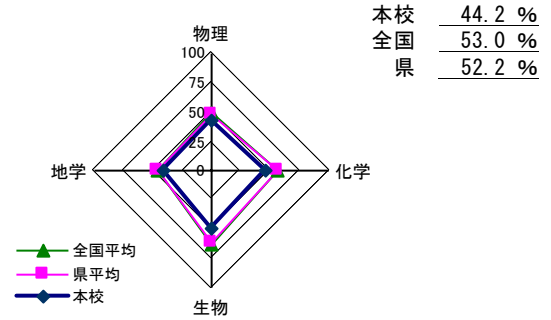
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率



重点課題

- ◎ 県平均と比較して、本校は特に化学・地学の分野において通過率が低くなっている。知識に関する問題よりも、知識を活用し解く思考・表現における問題の通過率が低いことが課題である。
- ◇ どの分野においても県平均を下回っている。特に、化学・生物の分野において県平均との大きな差が見られる。どちらの分野においても、特に思考・表現における問題の通過率が低いことが課題である。

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

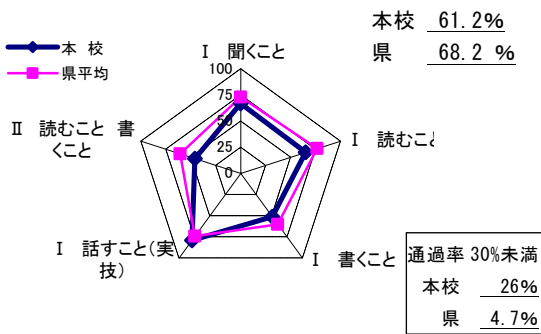


重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ◎ 科学的な事象について知識の定着をはかるだけでなく、なぜその事象が起こるのかを学習した知識をもとに生徒自らに考えさせる必要がある。実験などを通して、生徒に課題を予想させ、実験を行い結果から考察し、答えを導き出すといった、問題解決型の授業をさらに展開していく。
- ◇ 化学・生物の分野についていずれも知識を問う問題よりも表現する問題を苦手としているため、知識の蓄積よりも現象について考える授業を展開する必要がある。そのためには、実験する際には、仮説→実験→結果→考察のように、生徒自身に考えさせる問題解決型の授業を展開し学ぶ意欲を高めていく。

<英語>

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率



重点課題

- ◎ 「書くこと」「読むこと書くこと」の項目での通過率がそれぞれ、51.2%、49.3%という結果であり今後の一番の重要課題である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ◎ 通過率があまりよくなかった「書くこと」の中でも「基本的な文のきまりを理解した作文」は50%を下回っている。したがって、「語順」や言語材料の指導の際に「形」をしっかりと押さえられるように視覚的にそれらが分かるように語順カードを用いる。また、既習のものでも繰り返し使えるように授業を展開する。

生活・学習の授業方法の改善計画

(「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査、全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査)

(1) 生活・学習

	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
基礎・基本	学習習慣の項目で平日の家庭学習が1時間未満の割合が55.3%（県平均48.3%）、休日の家庭学習にいたっては58.5%（45.4%）になっている。よって、家庭学習の習慣化が課題である。	◎学校全体で取り組んでいる自主学習ノートを効果的に使用させるためにクラスごとで競ったり、よいノートを全体で共有することで全体の家庭学習を促進する。 ◇広島市で取り組んでいる「10 オフ運動」と連携するなど、保護者と協議するとともに家庭学習の効果的な方法などを提示し、帰宅してからの有効な時間の使い方を取り組ませたい。
全国	平日、テレビゲームを1日4時間以上するが23.5%（県平均9.8%、全国平均11%）、また携帯電話やスマートフォンを使用する時間4時間以上が19.6%（県平均8.1%、全国平均9.9%）と高くなっている。	

(2) 教科

		生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	基礎・基本	国語の授業についての意欲はあるものの、授業以外での読む、書くことには抵抗があるように見える。	アクティブラーニングを取り入れた授業づくりを行うことで生徒の意欲関心を高めること。 単元を貫く言語活動を設定し、生徒につけたい力を明確に持った授業展開を実施する。言語活動に取り組む中で様々な場面での言語運用能力を育てたい。
	全国	国語に関する必要性は強く感じており、授業内容に対する理解もある。しかし、基礎事項の活用能力に課題が見られる。	
数学	基礎・基本	基本的な計算問題は比較的取り組みもうという姿勢・通過率となっているので、まずは「無回答」にならないような意欲の底上げを目標とする。	「無回答」をゼロにすることができれば、基本的問題の通過率は増し、文章読解力の必要な問題への取り組みの意欲があがる。 普段の授業で①基本的計算力の向上②発展的問題への意欲的な参加取り組みを目標とする。①については日々の小テストなどを活用する。②については発展問題に取り組むとき、アクティブラーニング型授業を通して生徒同士によるコミュニケーション能力も育てていきたい。
	全国	特にB問題への通過率・無回答を課題とする。文章からの数量関係の読解が苦手である。	
理科	基礎・基本	授業において半数以上は興味があるものの、自分の考えを发表或し、文章で表現したりすることに苦手意識があるようである。実験は好きではあるが、結果をもとに考察できる生徒が半数にも満たないのが現状である。	通常授業において、理科の授業が自分たちの身近なところと関わっているなど、生徒との身近な例をたとえに授業を行い、理科の有用性についての認識を高める。 自分で考察し結論を導きだし、表現することが苦手であるため、知識の定着だけでなく知識の活用を行う授業を行わなければならない。実験や観察においては、生徒自身に仮説を考えさせ、目的を持って実験を行い、結果から考察し仮説を実証するといった、問題解決型の授業をさらに展開する。
	全国	授業に興味を持つ生徒は多いが、普段の生活や将来において学習内容がどのように活用されているのかを見いだせていない生徒が多い。実験や発表を積極的に行う生徒は多いが、実験結果から考察することに苦手意識をもっている傾向にある。	

英語	基礎・基本	質問項目全てに対して、概ねよい結果であるが、1つ課題としてあげられるのは「自分の考えや気持ち、事実などを英語で話す」の項目が53.2%（県平均56.9%）で唯一低かった。	「話すこと」では音読や暗唱は取り組むことで既成の英文を読んだりすることが多くなっているため、自分の考えや気持ちを表現するような機会を段階的・系統的にもうける。
----	-------	---	---